



OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2019

この報告書は2018年度の方針にそった
主な環境活動についてまとめたものです



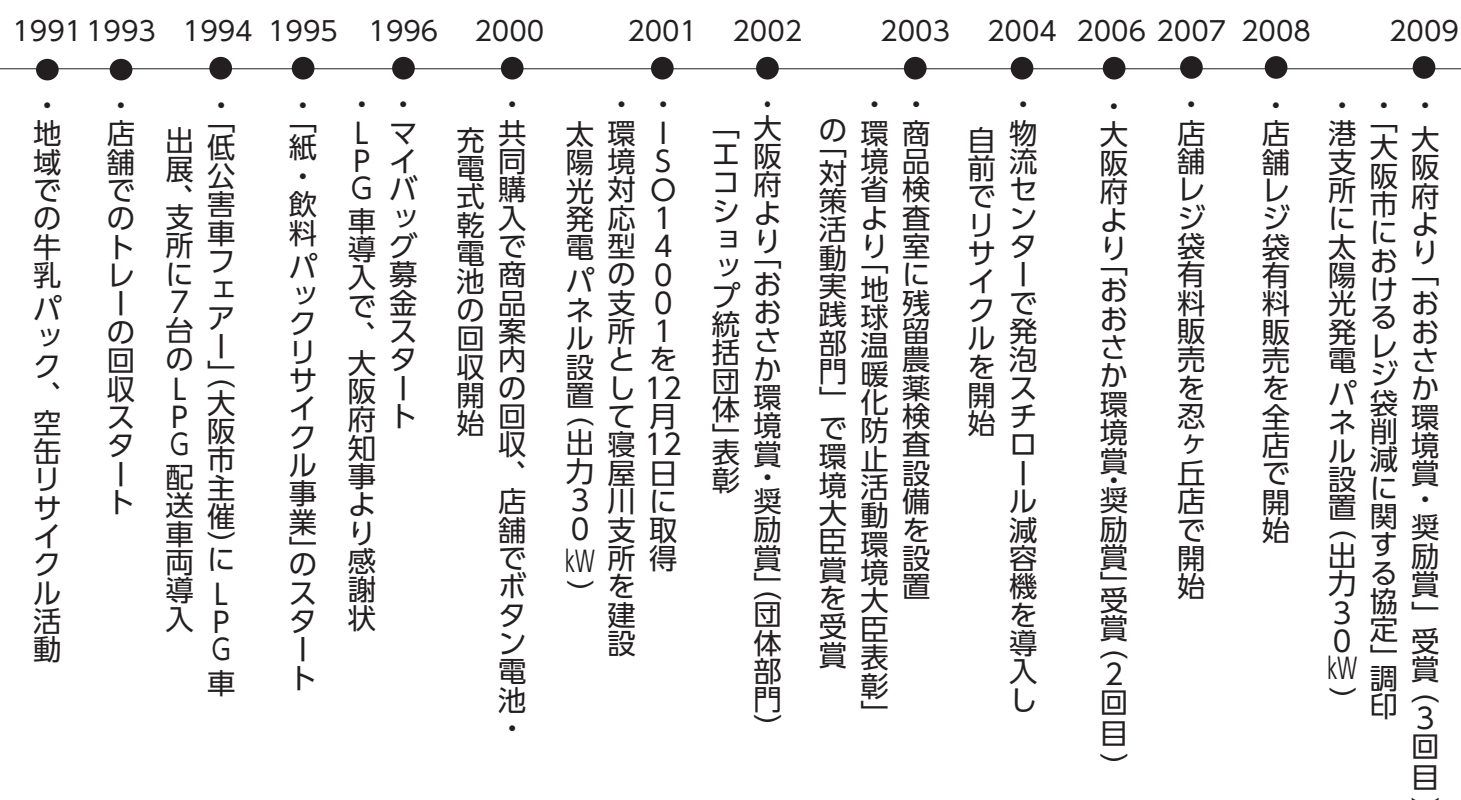
🌊🌊🌊「環境活動のまとめ」発行にあたって

「大阪の明日の最高気温は43℃」

環境省は「2100年未来の天気予報」をウェブ上に公開しています。これまでどおりの温暖化対策しかとらない場合、世界の平均気温が5℃近く上昇すると予測したIPCC（国連の気候変動に関する政府間パネル）の試算結果を加味したものです。大阪の30度を超える真夏日が年間136日（4か月半）、大雨や干ばつ、大型台風の到来なども予報されています。私たちがとりくむ温暖化対策が子や孫の世代に影響を及ぼします。

2018年12月2日から2週間の会期で、ポーランドの都市カトヴィツェで、国連の会議「COP24」が開催されました。この会合ではすべての国が温室効果ガスの排出量削減にとりくむ国際的な枠組み「パリ協定」をどのように進めていくかを定めたルールが採択されました。2020年からこのルールのもと世界の平均気温の上昇を産業革命以前と比較して2℃未満、できれば1.5℃未満に抑えることをめざし、温室効果ガスの排出量の削減が進められます。全世界の人たちが事実に向き合い、必要な対策を実施していくことに協力していきます。

これまでの主なあゆみ



「子どもたち・未来のために、美しい地球のために」

子どもたちに自然環境のすばらしさを伝えていくことは、大人としての課題です。未来を生きる子どもたちに美しい地球を渡せるよう、生協として地球温暖化防止の社会的責任を積極的に果たし、事業と活動をすすめていきましょう。

2019年5月 環境マネジメント推進委員会

A wide, shallow beach with gentle waves washing onto the sand. The water is a vibrant turquoise color, and the sand is a light, golden-brown. The horizon is visible in the distance under a clear sky.

A wide, shallow beach with gentle waves washing onto the sand. The water is a vibrant turquoise color, and the sand is a light, golden-brown. The horizon is visible in the distance under a clear sky.

A wide, shallow beach with gentle waves washing onto the sand. The water is a vibrant turquoise color, and the sand is a light, golden-brown. The horizon is visible in the distance under a clear sky.

- ・店舗 畜産品の脂リサイクルスタート
 - ・環境マネジメントシステム・
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
 - ・食品リサイクル(飼料化) 7店舗に拡大
 - ・なになエコ会議…二酸化炭素削減コンペ
ガス使用量削減活動でチャレンジ賞受賞
エコアクション21更新審査「適合」
 - ・おおさか協同物流センターに太陽光
発電パネル設置(出力655kW)
 - ・大阪市内3店舗で食品リサイクル(飼料化)をスタート
 - ・寝屋川支所の太陽光発電パネル更新
(出力30kWから50kWへ)
 - ・店舗で透明トレーの回収スタート
エコアクション21更新審査「適合」
 - ・NPO法人「リアルにブルーアースおおさか」により
ながお店に太陽光発電パネル設置(出力20kW)
 - ・北枚方支所に太陽光発電パネル設置(出力50kW)
 - ・忍ヶ丘店食品リサイクル(肥料化)をスタート
 - ・「大阪市におけるレジ袋削減に関
する協定」店頭イベントを開催
 - ・ライトダウンキャンペーンに参加
 - ・エコアクション21更新審査「適合」
 - ・商品検査室に放射能検査機器を設置
 - ・エコアクション21認証登録(11月29日)
-
-
-
-



環境マネジメントシステムを活用して 事業をすすめています

事業活動にともなう環境負荷を最小限にとどめることに継続的にとりくむために、環境省が定めた環境マネジメントシステム「エコアクション21」を活用しています。



毎年、資格を持った外部審査人の審査を受けます。2018 年度も 10 月 31 日から 3 日間、各事業所の審査を受けました。**環境へのとりくみが評価され「適合」**の結果でした。

環境方針

基本理念

おおさかパルコープは、持続可能な循環型社会の実現を目指し、環境問題を重要な課題と位置付け、組合員とともに環境保全活動に積極的に取り組みます。

基本方針

おおさかパルコープは、組合員を対象とした食料品など生活関連の商品供給事業及び共済、福祉事業や旅行、チケット、暮らし関連などのサービス事業を行っています。こうした事業活動から発生する環境に大きな影響を及ぼす項目について、技術的かつ経済的に可能な範囲で環境目標、環境活動計画を定めて取り組み、環境負荷の軽減と汚染の予防、生物多様性の保全への配慮、環境マネジメントシステムの継続的な改善を行います。

1. 環境に配慮した商品やサービスの取扱いと普及をすすめます。
2. 地球温暖化防止のために、CO₂ 排出量削減に取り組みます。
 - ・ パルコープで使われる機器について、積極的に省エネルギー機器導入に取り組みます。
 - ・ 電気、ガスの使用量削減に取り組みます。
 - ・ 配送効率の向上や運転技術の向上で車両燃料の削減に取り組みます。
3. 廃棄物の削減、リサイクルに取り組みます。
 - ・ 紙を効率的に使用し、使用量削減とリサイクルに取り組みます。
 - ・ 店舗では食品廃棄ロス基準を守り廃棄物の再生利用等に取り組みます。
 - ・ 組合員とともに、容器包装、商品案内などの回収リサイクルや、買い物袋持参に取り組みます。
4. 資源の有効活用、節水に組みむとともに、グリーン購入に努めます。
5. 検査室で商品検査に使用する化学物質の適正管理推進のために、定期的に使用量確認を行います。
6. 環境関連の法令、条例及び受け入れを決めたその他の要求事項を遵守します。
7. 組合員による環境活動を積極的に支援し、持続的発展を可能とする循環型社会構築に向けた社会的活動に広範に取り組みます。
8. 以上の活動を進めるために、職員に対する環境教育と環境コミュニケーションを積極的にすすめます。

この環境方針はおおさかパルコープの内外に公開するとともに、環境活動の取り組みの状況について定期的に公表します。

2001 年 7 月 21 日制定
2014 年 10 月 16 日改定
生活協同組合おおさかパルコープ

理事長

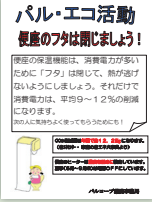
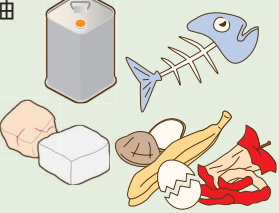


環境省
エコアクション21
認証番号 0006252

2018年度 主な環境目標の実績と評価



事業所や部署ごとに、今年は29項目の目標を持ちました。25項目は目標を達成したり実施することができましたが、6項目は目標を達成することはできませんでした。毎年目標の見直しを行いながらとりくみを継続します。

	主な環境目標	活動と評価
省エネルギー活動 CO ₂ 排出量削減のために	電気使用量 	 前年対比 102.6% 夏場の猛暑が影響しました。事業所の開設などで増える要因があり、次年度、使用量削減をすすめます。
	ガス使用量 	前年対比 94.8% 空調に使う京橋ビルの使用量が夏場多くなりましたが、秋以降の気温の落ち着きと、室温の細かな管理が効果を発揮しました。
	水道使用量 	 前年対比 97.8% 店舗で使う節水蛇口を、使い勝手を確認しながら節水率を細かく変更したことで、効果を発揮しています。
食品ロス削減のとりくみ 1、調理に使った食用油 2、魚のアラ 3、畜製品の脂 4、野菜くずや消費・賞味期限の切れた商品		約371トン 食用油は車両燃料に、魚のアラ、畜製品の脂、野菜のくずなどは、飼料原料や油脂として再利用されます。廃棄物を出さない手立てを打ちながらも、残った食品は有効利用するとりくみです。
車両燃料使用量の削減 	燃料使用量 前年対比 102% 車両台数 前年対比 114% エコドライブ 車両燃料やCO₂等の排気ガスの排出削減ができます。 制限速度を守り、急発進、急ブレーキなど「急」のつく運転はしない。駐車時はアイドリングストップなど環境に配慮した運転をする。等 安全運転	配送業務を委託していたものを、直接雇用の従業員へ戻しています。車両保有台数は114%と増えていますが、車両燃料使用量前年比は102%と削減できています。 年間で3回、自らの運転状況を見直し、安全運転に努めるために、セルフチェックを実施しています。車両燃料使用量削減のために、「シートベルトを締めてからエンジンスタート」も合言葉です。
化学物質使用量の把握 	健康管理・事故防止	検査室では19,576件の検査が行われています。検査員の健康管理、事故防止を目的に使用農薬の管理と、定期的な訓練が実施されています。



地球温暖化防止のためCO₂排出量削減の とりくみをすすめています

2018年度CO₂排出量は11,836トンになりました。昨年対比で101.4%となり、原単位では20.2トンとなりました。

※原単位：CO₂排出量を供給金額で割り算して、CO₂排出量を算出し、削減にとりくむ方式です。

毎年、設備改善と運用管理の強化で排出量削減にとりくんでいます。多くのCO₂を排出する事業者の社会的責任として、これからも削減のとりくみを積極的にすすめていきます。

全国生協のCO₂排出総量削減目標

2020年に
2005年度比で **15% 削減**

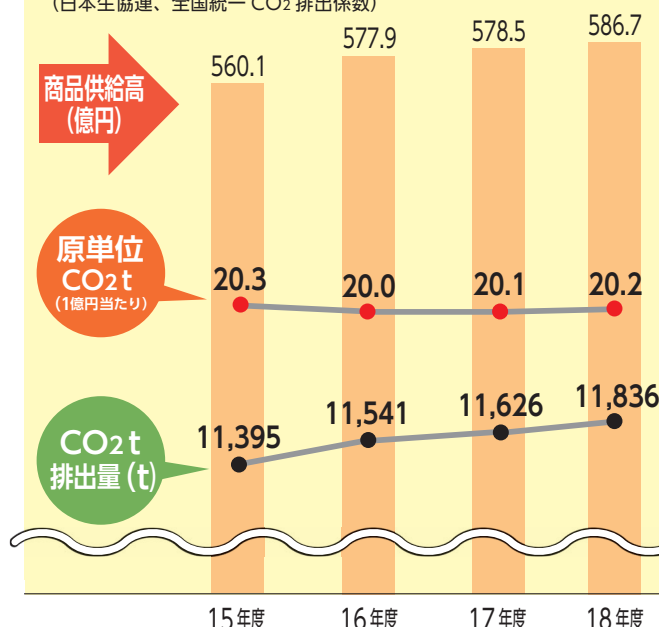
日本生活協同組合連合会ではCO₂排出量の総量削減をすすめるために、全国の生協と協力して「温室効果ガス総量削減計画」をすすめています。2020年度に、生協全体のCO₂排出量を「2005年度対比で15%削減」を目標としています。

パルコープでもデータ提供し、総量削減のとりくみをすすめています。

CO₂排出量の抑制 経年の推移と評価

電気使用CO₂排出係数：0.423kg-CO₂/kWh
(日本生協連、全国統一CO₂排出係数)

今年度
パルコープの
CO₂排出総量
11,836t



全事業所で省エネにとりくんでいます

共同購入・各事業所でのとりくみ



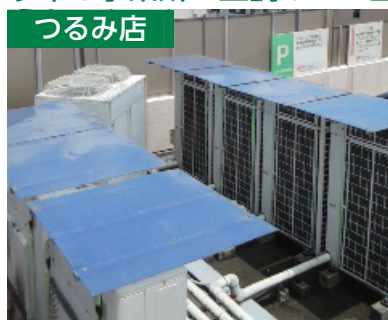
省エネ設備の導入をすすめました

門真市栄町に門真支所、大阪市西成区に南津守支所を開設しました。

支所を配送地域に分散することで、業務効率が改善され、車両燃料の使用量の削減など省エネルギーにもつながります。消費電力削減、節水、資源の再利用など、門真支所（19項目）、南津守支所（22項目）の環境対応を行いました。



今年も事業所の空調などの室外機に自前の遮光工事を行いました



遮光設備の
設置で
電力使用量
10% 削減
効果

省エネ診断を受け提案を頂いた事を契機に、毎年、直射日光が長時間当たる店舗、配送センターの室外機に遮光の設備を設置しています。今年度は7ヶ所に設置しました。電力使用量で10%の削減効果があると言われています。次年度は水の気化熱を利用して電力使用量を削減する装置をテスト的に設置することを検討しています。

店舗でのとりくみ

食品リサイクルのとりくみ

店舗で実施している食品リサイクルは、昨年4月から3月までで約183トンが長岡京市のリサイクル工場に運ばれて飼料になりました。

また、畜産品の脂は7月から、畜産専門の搬入先に変更し、徳島県でリサイクルするとりくみを全店で開始しました。3月までに約12トンが飼料になりました。

※食品リサイクル：お店に出る賞味期限が切れた商品や野菜くずなどを、飼料に加工し再利用するとりくみです。



店では細かく分けて出す作業をしています。



食品のリサイクル
約195
トン

完成した飼料原料



パル・エコ こぼれ話

パルコープの店舗での環境関連掲示物いろいろ。毎日のとりくみが積み重なって大きな改善につながります。

パル・エコ活動

上手に使って大切な水



節約しよう!

出しっぱなしは

30秒間 → 約 6 ℓ

1分間 → 約 12 ℓ

3分間 → 約 36 ℓ

5分間 → 約 60 ℓ

パルコープ環境事務局

限りある資源である水を大切に使用して、節水名人になりましょう。



パル・エコ活動

無駄な電気は使わない!

トイレを出る時は
※ 照明必ず切りましょう。
※ 換気扇も必要なければ切りましょう。
※ トイレのふた開めの啓発をしています。



1日5時間消灯で

1年間で約3,700円の経費削減になります。

CO2削減量は年間約94kgになります。
(照明ネット・エコさんの削減よりも)

パルコープ環境事務局

太陽光発電設備について

再生可能エネルギーはCO₂の排出量を大幅に削減し、日本のエネルギー自給率を上げることにつながります。現在、パルコープでは(株)おおさか協同物流センター(655kW)を含めて785kWの太陽光発電が稼働しています。年間発電量は合計852,176kWhになり、CO₂の排出量で371トンの削減につながっています。

太陽光発電設備

北枚方支所	50kW
寝屋川支所	50kW
港支所	30kW
(物流センター)	655kW)

(株)おおさか協同物流センター



太陽光発電設備

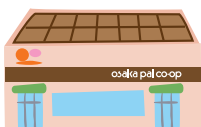
おおさか協同物流センターでの環境へのとりくみ

2015年までにLED照明 2,840ヶ所導入 年間約221,000kWhの節電	
2015年2月	フードバンク関西への食品提供開始(年間約10tを提供)
3月	生ごみ処理機シンクピア導入 年間約110tを処理
6月	太陽光発電開始 654.5kW 年間約650,000kWhの発電
2017年4月	シッパー洗浄機導入(衛生とシッパーの寿命延長。月約11万個洗浄)
9月	天井設置大型ファン(コース別エリア作業者の暑さ対策で導入)
2018年6月	非常灯LED化(13ヶ所19本)

年間発電量
852,176
kWh

CO₂排出量の削減効果
371
トン分

(電気使用CO₂排出係数:
0.435kg-CO₂/kWh)





生産から消費まで、環境に配慮した商品の取り扱いをすすめています

鮮度と美味しさ！ あわせて環境へも配慮しています。

美吉野農園、水本琢海さんからのお便りをご紹介します。

私達の産地では、梅、柿の果樹栽培が盛んです。農薬を使う時期も梅、柿では異なりますが、収穫時に影響が出ないように、両方に使えるものを使用するように推奨しています。また、残留期間の長いものは使わない、使用回数の削減などに取り組みながら、毎年見直しをしています。肥料も有機質肥料を使用することを推奨しています。

なお、栽培コストを少しでも抑えることができるように、農薬や肥料は共同購入を行っています。

使用後の資材の処理は毎年日を決めて、不要な農薬や使用後の容器などをまとめ、業者に処理をお願いしています。生産者は使用した袋、容器は取りまとめて置き、環境に配慮して共同で処分できるようなシステムを作っています。



柿農家の井手谷孝宏さん

もずくを食べてサンゴが育つ海づくり

サンゴ再生もずく基金

サンゴ



今年度植樹
94本

～サンゴ再生もずく基金・
ココラボ～



「恩納村産 味付糸もずく」

産地、メーカー、生協、組合員が手をつなぎ、もずくの育つ海里を守るとりくみです。

もずくはサンゴが元気なきれいな海で育ちます。恩納村漁協・(株)井ゲタ竹内・パルコープ・よどがわ市民生協で「サンゴ再生もずく基金」にとりくみ、サンゴが育つ恩納村の海を応援しています。

植樹され、成長したサンゴたちが産卵し、その卵が海流によって色々な場所に広がっていくことで環境が良くなることをめざしています。

「恩納村産味付糸もずく」1品につき1円がサンゴ基金になります。約2,800個のご利用で、サンゴ1本が植樹されます。**今年は94本となり、2013年度からの累計では513本となりました。**

※残念ながら2019年度産糸もずくは海水温の上昇による生育不良で収穫が無く、次年度の水揚げが開始されるまで、6月からしばらく休止になります。



恩納村
沖縄本島



サンゴ再生もずく基金

井ゲタ竹内
もずくの
製造・販売

恩納村漁協
サンゴの植樹
もずくの収穫

組合員さん
もずくを利用

パルコープ・
よどがわ生協
1品あたり1円を
「サンゴ再生基金」
として寄付



耕作放棄地再生活動 in 紀ノ川市北長田



高齢化や後継者不足などにより年々耕作放棄が増え、和歌山県では耕作面積全体の約12%を占めているといわれています。一株トマトなどでお世話になっている紀ノ川農協では耕作放棄地を再び農地として復活させるためのとりくみを行っています。

2019年に入りパルコープの環境内部監査員のメンバーを中心に、紀ノ川市北長田地区にある耕作放棄地(柿や桃の生産地でした)となっていた場所をレモン園地に替えるとりくみに協力しています。2年後の収穫を目指し、4月には定植作業が行われました。

今後も草刈りの応援など、とりくみを続けます。



木や根部分の撤去作業



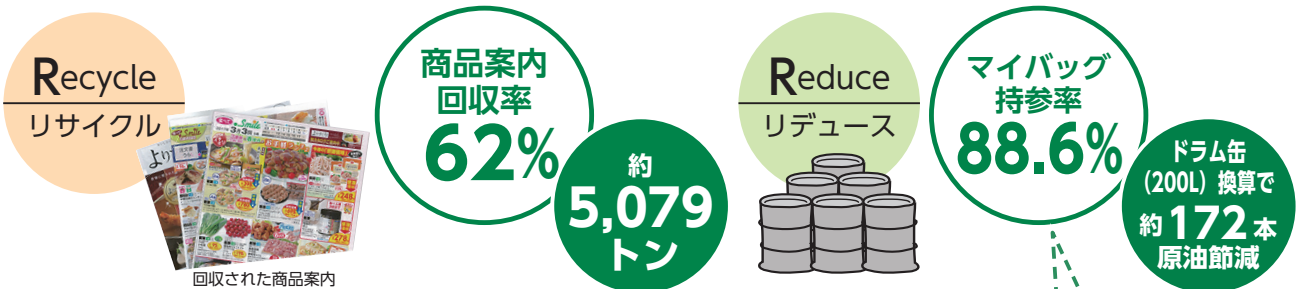
2019年4月14日 レモンを植えました。

3Rで資源の有効活用をすすめています

環境を守る問題として「海洋プラスチック問題」が大きく取り上げられました。パルコでは組合員さんのとりくみによるマイバッグ募金をスタートに、忍ヶ丘店で2007年、2008年から全店で「レジ袋の有料化」による買物袋持参運動にとりくんできました。組合員さんの理解もあり来店者の90%ほどの方が買い物袋を持参されています。今後も包装資材の代替えや不必要なものの廃止、分別とリサイクル、消費者の意識と社会システムの整備に向けてとりくみを続けます。

組合員さんには回収、再資源化しやすいよう、洗う・開く・乾かす・つぶす・重ねるなど、それぞれの回収方法を守り、リサイクルにご協力を引き続きお願いします。

- 事業活動に伴って排出される容器包装のリサイクルにとりくんでいます。捨てればゴミに、分別して出せば資源です。
- 共同購入で使われている商品案内（カタログ）は、古紙原料としてリサイクルされています。組合員さんのご協力で、2018年度は5,079トンの回収、再資源化につながりました。
回収率は現在、約62%です。100%を目指して、配送時の回収を広めましょう！



リサイクル品18年度回収量		回収量
商品案内	回収率：62%	5,079t
共同購入	紙飲料パック	92,600kg
	卵パック	38,560kg
	仕分け袋	37,820kg
店 舗	紙飲料パック	19,240kg
	卵パック	12,370kg
	ペットボトル	27,770kg
	ビン	52,840kg
	缶	7,080kg
	食品トレー	42,140kg
	乾電池類	1,980kg
共同購入+店舗	蛍光灯管(大阪市内)	2,430 本
	発泡スチロールダンボール	65,280kg 888t

組合員さんには、店舗でのマイバッグ持参にとりくんで頂いています。マイバッグの持参率は88.6%となりました。レジ袋は約606万枚削減されていることとなります。

毎年多くの新しい組合員さんを迎えるなか、マイバッグ持参運動を地道に続けていることが高い持参率の維持につながっています。

- お店では「魚のアラ」をリサイクルしています。(全店舗)
岸和田市にある小島養殖漁業生産組合で魚粉と魚油を製造。飼料などに使われています。

1年間で**150t**ほどが
リサイクルされています。



店舗の調理廃油をトラックの燃料にします

お店で調理に使ったあとの廃油は、運送会社の西田商運（九州福岡）が大阪に荷物を持ち込んだ帰りの便で持ち帰り、同社所有のプラントでバイオディーゼル燃料となり、同社トラックの燃料として使われています。今年も昨年と同じ約22,000リットル（200リットルドラム缶110本）の燃料になりました。



バイオディーゼル製造プラント



バイオディーゼル燃料で走る車両

※西田商運さんのホームページより



1日エコライフ

組合員のみなさんひとりひとりの、少しずつの心掛けが大切です。

エアコンの温度管理、買物袋持参、ゴミの分別やリサイクル、車は使わず徒歩や自転車での外出。毎日の暮らしの中で環境を守るとりくみにつながることはたくさんあります。組合員さんには毎年、OCRアンケートなどを通じて、身近にできることにチャレンジして頂いています。

今回参加人数
3,021名
(組合員+職員)
CO₂削減量
約**2,066kg**



1日エコチャレンジでいただいた 感想・メッセージをご紹介します

夏場は
とりくんでいるので、
冬にできるエコライフに
についてもとりくんでみようと思
います。

この異常気象を
考えると節電を
考えなければ
いけないと
感じました。

保冷剤を
タオルに巻いて
首を冷やしなが
ら家事をしました

環境も、
健康も、お財布にも。
エコライフはプラスの事が
多いと実感しました。

暑さの厳しい
今年は大変でしたが、
一人ひとりの心掛けを
大切にしたいと
思いました。

こういった機会が
あると、エコについて
子どもたちとも話し合えて
良いです。

とりくんでみると
1,891gも削減
できるのかと思い、
毎日実行しようと
思います。

冷房の節電のために
ベランダからの日光を
遮るため、カーテンを
有効活用しました。

我慢する
のではなく、
楽しいエコライフを
続けます。

家族みんなで
一つの部屋で過ごすように
心がけました。少しの事で
エコできるというのを常に
頭のすみにおいていたら
いいなと思いました。

エアコンと
扇風機を併用すると
部屋全体がすずしく
なり大変よかった。

エアコンの
ついた部屋で、
家族一緒に
寝るようにした。

エレベーターを
避けて、階段を
利用しました。



地域や行政とともに

2018年6月21日、7月7日ライトダウンキャンペーン

今年も全店舗で「ライトダウンキャンペーン」、大阪市内の店舗では大阪市環境局、なにわエコ会議との「レジ袋削減協定・店頭イベント」、枚方では地球温暖化対策協議会からの要請を受け「打ち水大作戦」などにもとりくみ、地域への環境活動のアピールに努めました。



店内照明を落としています



タオルを参加者にプレゼントしました。

8月1日
西くずは店
打ち水大作戦



11月7日
つるみ店
レジ袋削減
キャンペーン



地域、行政と一体となった環境イベント

「ガレージセール・イン・OSAKA TOWN」「環境フェスタ in 交野」「住之江まつり」「環境フェア(寝屋川市)」など、地域、行政と一体となった環境イベントにとりくみました。



10月23日
ガレージセール
IN OSAKA
TOWN



7月15日
住之江まつり



3月10日
環境フェスタ
in 交野

身近な水環境の 全国一斉調査

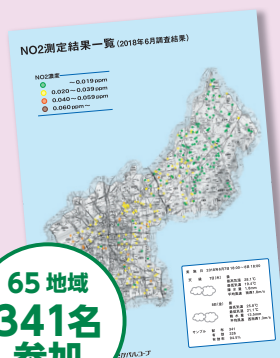
大阪市内では「身近な水環境一斉調査」に17地点43名が参加しました。



17地点
43名
参加

NO₂ 自主測定

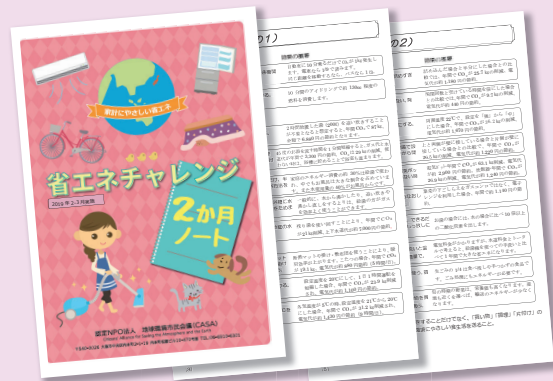
大気汚染への関心を高めるために毎年とりくんでいるNO₂自主測定には65地域341名の参加がありました。



65地域
341名
参加

省エネチャレンジノート

地球温暖化防止に身近なところからとりくむ省エネチャレンジノート(協力:特定非営利活動法人、地球環境市民会議=CASA)に、のべ96名が参加しました。



省エネチャレンジノート(表紙・内面)

OSAKA PALCOOP ECO REPORT 2019



「自分たちで市民協同発電所を作ろう」と組合員さんの中から NPO法人「リアルにブルーアースおおさか」がうまれました。なごお店屋根に設置された 20kW の太陽光発電設備は 2014 年 1 月から稼働しています。2018 年 3 月からの 1 年間では 22,460kWh 発電しました。これは一般家庭の年間消費量（約 3,600kWh）で換算すると 6.2 軒分に相当します。



なごお店屋根 太陽光発電設備



ワークショップ「ソーラーキーホルダーをデコってみよう」

おおさかパルコップ 概要

2019 年 3 月 20 日現在

名 称 生活協同組合おおさかパルコップ
設 立 1991 年 3 月 2 日
職 員 数 フル職員 827 人、属託職員 63 人、パート職員 1,585 人
供 給 高 586 億円
組合員数 43.1 万人

共同購入支所数 13 カ所
店 舗 数 9 店舗
組 合 員 会 館 4 カ所
組 合 員 集 会 室 12 カ所

 生活協同組合 おおさかパルコップ

大阪市都島区東野田町 1-5-26
<http://www.palcoop.or.jp/>

2019 年 5 月発行